

camera view

●「広報つばめ」だけでは物足りないあなたへお送りする「Web版カメラびゅう」
https://www.city.tsubame.niigata.jp/keikaku/koho/2_1/index.html



●市内の出来事や、頑張っている皆さんの姿を紹介するコーナーです。



※記念撮影時のみ希望する児童はマスクを外して撮影を行いました。

かわいいクリスマスリースを作ったよ!

●12月13日 西燕児童館

季節にあった工作を行う「シーズンクラフト」。西燕児童館ではクリスマスリース作りにチャレンジしました。みんな思い思いに松ぼっくりや手作りの小物飾りを貼り付け、世界に一つの可愛いリースが完成しました。クリスマスの夜にみんなのお家を訪ねて来たサンタさんもきっと大喜びだったことでしょう。



つばめ
 会えました
 GateCAFE(兼席)

燕市出身で県外在住の人たちのグループ「東京つばめい」との交流会を2年ぶりに開催。燕市クイズ大会では全問正解者が出るなど、とても盛り上がりました。



想いの詰まった
 商品が並びました
 12月6〜11日 燕市役所

障がい者施設の商品販売やパラアスリートによるオンライン講演を行った「つばめバリアフリーフェス2021」。「障がい」への理解を深める交流の場となりました。



未来へ向かって
 羽ばたけ、新成人
 11月20日 文化会館ほか

昨年3月から延期となっていた成人式に新成人510人が出席し、二十歳の門出を祝いました。3会場に分散して実施するなど、コロナ禍に対応した開催となりました。



1万5千人の来場者に
 燕市をPR
 12月5日 明治神宮野球場

「東京ヤクルトスワローズファン感謝 DAY2021」にて、スワローズ関連の市内産品を販売。日本一の興奮冷めやらぬ中、たくさんのファンが訪れ、燕市ブースは大盛況でした。

今月の一品

キャデイスプーン展 (1月16日(日)まで)



燕市産業史料館
 ☎0256・63・7666
 ■休館日
 月曜日(祝日の場合は翌日休館)、年末年始(12/29(水)～1/3(月))
 ■入館料
 大人400円、高校生以下100円 ※団体割引あり

「キャデイスプーン」とは紅茶の葉をすくう際に用いるスプーンで、日本茶で用いる茶匙(ちやし)に似ている道具です。
 ヨーロッパにお茶がもたらされた17世紀頃、その普及の中で使用され、イギリス貴族社会で次第に人気を高めていきました。中国から英国に運ばれた、茶の香りなどをみるために自然貝(ホタテのようなもの)が使われたのが、キャデイスプーン(の原型といわれています。後にティーキャデイスプーン)の形状がキャップ付きから蓋付きに変わり、茶葉をティーポットに移すためのスプーンが必要になりました。その結果、東洋の茶道から生まれた茶匙とは異なる、英国文化の香り漂うスプーンが作られました。
 形式などにこだわらず、自由な発想から実用的なものやユーモラスなもの、豪華なものなど多種多様な芸術的なキャデイスプーンが誕生したそうです。
 今展覧会では、コレクターが生涯をかけて収集した、珠玉のキャデイスプーンを紹介しています。

※ティーキャディ…紅茶を保存しておくための専用の容器



大河津分水コラム
 次の100年に向けて
 子どもたちのお礼状



信濃川大河津資料館には年間に70校ほどの小学校が見学に来てくれます。横田切れをはじめとする水害は3年に1度の頻度で起きたこと、その水害によって深田が越後平野に広がり米どころとはかけ離れた世界であったこと、それでも長善館の卒業生などの先人たちは諦めずに大河津分水を願ったこと、さらには自在堰が陥没し信濃川や中ノ口川・西川は枯れ果て飲み水にさえ苦しんだことなど、大河津分水を学ぶことで、子どもたちは燕や新潟の苦勞に気づいていきます。
 その子どもたちが見学の感想を直筆で描いてくれたお礼状、約30通を信濃川大河津資料館に飾っています。お礼状に共通して書かれているのは「大河津分水のおかげで私たちの暮らしが守られていることを知りました」といった大河津分水への感謝の気持ちです。

令和4年8月25日、大河津分水は通水100周年を迎えます。先人たちが今を生きる私たちにプレゼントしてくれた宝物を、次の100年にどう伝えるのか、考える契機になれば嬉しいです。

※ツツガムシ病…ツツガムシに刺されると発症する感染症。高熱を発生し、ひどい場合は死に至ることもあった。

地域おこし協力隊の奮闘日記 vol.46



東京から移住してから2度目の冬を迎え、この冬もまた雪と雷が同時に降り注ぐ珍しい光景を見られるのかとドキドキしています。同時に、今シーズン、カマキリはどの高さに卵を産んだのか気がかりでなりません。低いと良いのですが…。

昨年11月に開催した「秋の空き家総合相談会」はおかげさまで大盛況に終わりました。県内初となる『住まいのエンディングノート活用講座』は、参加者の皆様のご協力のもと、無事開催でき、終了後には「参考になった」と嬉しい言葉もいただきました。ただ、さまざまな空き家相談がある一方で、“そのまま”の空き家も多くあるのが現状です。強風や積雪がある度に、空き家が飛ばさないか、崩壊しないかと日夜心配になり、我が家よりも心配しています(笑)。空き家所有のみなさん、この冬も空き家の管理をお願いします! 心配な点などあれば、いつでもご相談ください。

住まいのエンディングノート
 活用講座の様子です



燕市地域おこし協力隊
 吉川 穂子